

あらすじ

天下分け目の「関ヶ原の合戦」は、全国の武将が東軍（徳川家康）と西軍（石田三成）に別れ戦った戦である。その関ヶ原以外でも局地戦が展開された。その一つが徳川軍は「小諸城」を本陣とし、真田軍は「上田城」を本陣として戦った「第二次上田合戦」である。

【西軍 真田軍の動き】

真田昌幸のもとに石田三成から味方になってほしいとの書状が届き、西軍に昌幸（父）と信繁（次男）、東軍に信幸（長男）がつくことによる（犬伏の別れ）。これにより、どちらが勝っても真田家が残るようになる。信繁は、砥石城（上田城の北に位置）に入城し、信幸は徳川軍からの上田城空け渡しの交渉に信濃国分寺に行く。

【東軍 徳川軍の動き】

石田三成を討つべく、徳川軍は二手に分かれて進軍した。その一つが徳川秀忠率いる中山道を通るルート。家康から上田城攻略の指示を受けた秀忠は、西軍に寝返った真田昌幸と信繁を討つため小諸へ向かった。

そして、上田城の空け渡しの交渉をするため信濃国分寺へ信幸（真田家の長男）を使者として送る。

【両軍衝突】

慶長5年（1600）9月2日、上田城の空け渡しの交渉が始まる。昌幸はあっさり上田城を明け渡すと申し入れた。秀忠は簡単に上田城を制圧できたに思えたが、昌幸と信繁は上田城に軍備を整え、城の周辺には伏兵をしのばせていた。9月4日、上田城の空け渡しが遅いことを不審に思い、秀忠は再度使者を昌幸のところへ送ったところ、昌幸は挑発的な態度でこれを突っぱねた。

9月5日、挑発を受けた秀忠は激怒し、たまらず兵（真田軍の5倍以上）を率いて真田を討ちに行く。まず、信繁がいる砥石城を落とすため信幸（真田家の長男）隊は進撃する。信繁は兄との戦いを避けるため、上田城に撤退する。徳川軍は上田城に撤退した信繁を追い、そのまま進軍する。しかし、上田城は強固だった。9月6日、秀忠は作戦を変更した。農民兵が多い真田勢を挑発するため、上田城外にある田の稲を刈り取らせた。こ

小諸城は、かつて徳川軍の本陣だった



徳川 秀忠
徳川幕府二代将軍。
徳川家康の三男。



本多 正信
徳川家康が一番頼りに
していた腹心。



徳川軍
（東軍）



真田 信繁（幸村）
昌幸の次男で本名は信繁。戦国武将として拔群の人気を誇る武将。第二次上田合戦でも砥石城に入り、活躍する。徳川と豊臣が戦った大阪の陣では「真田丸」を築き大活躍する。



真田 昌幸
第二次上田合戦の立役者。徳川秀忠を挑発し、徳川軍を混乱させた張本人。第一次上田合戦でも徳川の大軍を破っており、「表裏比興之者」の者といわれ全国に武勇をとどろかせた。



真田軍
（西軍）

画像提供：一般社団法人 小諸フィルムコミッション